

Federico Ferrara, Erik S. Herron, Misa Nishikawa. 2004. *Mixed Electoral Systems : Contamination and Its Consequences. Chapter 5 - Interactive Ballots : The Microfoundations of Contamination* (pp. 65-79). New York, NY : Palgrave Macmillan

法学研究科 M1 宋財法^{ソングェヒョン}

概要

- SMD 投票が PR 投票先に影響を与えるという干渉(contamination)の存在によって「統制された比較」は限界を持つ。
- 第3、4章により混合制は単純に SMD と PR を合わせた制度ではなく、新しい制度である事を明らかにした。
- しかし、今までは選挙区レベルでの分析が主だったため、「有権者個人」という変数が固定されていた。つまり、SMD と PR の間の相互作用が確認できたが、その方向が定かではない。
 - ・ 小選挙区へのノミネーションが PR での投票数をあげたか ⇔
 - ・ そもそも人気のある(もしくは人気があると思われる)選挙区に候補者をノミネーションしたか。
- 本章の狙い
 - 1) 個人レベルにおいて二つの制度間の相互作用が政党選択をどう形成するかを定式化
 - 2) 個人レベルにおける干渉(contamination)のエビデンスを明らかにする事

政党選択の形成において干渉(contamination)の役割

- 今までの議論は選挙キャンペーンによって有権者の政党選択が変わりうる事を前提
 - ⇒ 有権者はキャンペーンによって情報を獲得し、それに基づいて政党を評価するため(不確実性の軽減)
- 候補者間のキャンペーンのバランスによって有権者に異なる影響を与える
- 混合制の下での政党の SMD ノミネーション戦略
 - 1) リソースが許すかぎり、出来るだけ多くの候補者をノミネーション
 - 2) 勝利の見込みがある選挙区のみノミネーション
 - ⇒ 選挙前の強力が生じやすい
 - ⇒ 異なるノミネーション戦略は異なるキャンペーンをもたらす、それは有権者の政党選択に影響を与える
 - ・ 有権者は SMD の情報と PR の情報を分けて考える事なく、SMD の情報を利用して PR デの政党選択を行う。
 - ・ ダウンズ：有権者は政党ラベルを利用して候補者を判断する
 - ⇔ しかし、SMD の候補者を通じて政党の情報を提供し、有権者が SMD の候補者を通じて政党の情報を得る事も可能であるはず
- コートテール投票
 - ・ 資質(quality)の高い候補者はコートテールをもたらす可能性が高い

⇒不確実性と少ない情報という環境において候補者から政党の情報を獲得する事は合理的

□キャンペーン中において発せられる情報に最も敏感な有権者

- 1) 弱い党派性
- 2) 無党派層
- 3) 投票先未決定者

□資質の高い候補者が PR の政党選択に影響を与えるメカニズム

- 1) 党派性の強化：支持者の離脱を防止
- 2) 無党派・未決定有権者を吸収
- 3) 競争相手の支持者の吸収(限定的)

データ及び変数

□対象国家：ニュージーランド

- *1993年の制度改革
- *MMP(議席数はPRで決定、SMDで当選した人から優先的に配分)
- *SMDとPRのバランス(67:53)

□データセット：NZES(N≒6000)、1999年度選挙

□分析手法：条件付きロジットモデル

- *多項ロジットは独立変数が選択する主体の属性である事に対して、条件付きロジットにおいては選択肢の属性が独立変数として用いられる。
- *多項ロジットとは違って、各変数に対して一つのパラメータのみが割り当てられるため、推定式が一つのみになる

□変数

- 1) 従属変数：PR投票(PR Vote) — SMDとPRの投票先が一致すれば「1」
- 2) 独立変数1：SMDにおける候補者に対する主観的評価(Candidate Rating)
- 3) 独立変数2：SMD投票先(SMD Vote) — カテゴリカル変数でなくダミー変数

□内生性の問題

- ・上記の三つの変数で構成されたモデルにおいて従属変数と独立変数の間に有意な統計量が示されたとしても、それが因果を示しているとは言えない。むしろ有権者たちは1)理念的近接性、2)強い党派性、3)強い成長所属感覚によって特定の候補者に高い評価を付ける可能性もある。
- ・上記のような変数を分析に投入しないと干渉(contamination)の程度を過大評価しうる。これはKKVのいう「省略された変数」による内生性の問題¹をもたらすため、政党選好を表す4つの変数を追加する事で、候補者評価とPR投票の間に存在しうる政党の効果除去する。

¹G.キング、R.O.コヘイン、S.ヴァーバ著、真淵勝監訳、2004年『社会科学のリサーチ・デザイン：定性的研究における科学的推論』勁草書房、pp.225-227

□統制変数

- 1) 党派性(Partisanship) : 各政党に対する党派性の程度(0~4)
- 2) 政党評価(Party Rating) : 各政党に対する評価(0~10)
- 3) 近接性(Proximity) : 各政党と応答者のイデオロギー距離(主観的)
- 4) リーダー評価(Evaluation of Leader) : 各政党のリーダーに対する評価(0~10)
- 5) イシュー投票(Issue Voting) : 経済、税制、健康、教育、人種、環境、雇用のイシューにおいて各政党が自分の観点と一致すると答えると「1」
しかし、緑の党はこの設問において「その他」と分類されている

分析および含意

□モデル

表 1. モデルの説明

	モデル				
	モデル 1	モデル 2	モデル 3	モデル 4	モデル 5
従属変数	PR 投票	PR 投票	PR 投票	PR 投票	PR 投票
独立変数	候補者評価	—	候補者評価	SMD 投票	候補者評価 SMD 投票
統制変数	党派性 政党評価 近接性 リーダー評価 *	党派性 政党評価 近接性 リーダー評価 イシュー	党派性 政党評価 近接性 リーダー評価 イシュー	党派性 政党評価 近接性 リーダー評価 イシュー	党派性 政党評価 近接性 リーダー評価 イシュー

*注：モデル 1 においては緑の党が設問の選択肢が存在しなかったため除去

□モデル 2 → 3 / 2 → 4 / 2 → 5 になるにつれモデルの適合度が向上
⇒干渉(contamination)の存在

□候補者評価が高くなると SMD 投票が PR 投票を干渉するように。
⇒統制変数を投入したうえで統計的に有意な係数が得られた
⇒統制変数とは独立的に SMD 投票と候補者評価は PR 投票に干渉

□SMD 投票と候補者評価を同時に導入したモデル 5 においては候補者評価の係数が 0 に近づき、有意でなくなる。
・資質の高い SMD 候補者をノミネーションする政党は有権者に対して自分たちの SMD/PR 投票を増加させるような情報を提供

□しかし、「省略された変数」の可能性は未だ残存しうる
⇒有権者を 2 つのカテゴリで分類

- 1) キャンペーン中に投票先を決めた人とそうではない人
 - 2) 他の政党への投票を考慮した人とそうでない人
- ・候補者評価は 1) キャンペーン中に投票先を決めた有権者、2) 他の政党へ投票を考慮した有権者のみに有意
 - ・そうでない有権者は党派性、政党評価、リーダー評価、近接性などから影響を受ける

⇒SMD キャンペーンと PR 投票の関係はキャンペーン中に意思決定を行う有権者から出された効果。

□全ての変数を固定したうえで、候補者評価と政党選択の関係を分析

- ・対象：Labour 寄りの有権者(弱い党派性)／無党派層
- ・結果 1：党派性の弱い有権者にとって、low quality 候補者のノミネーションは他の政党への投票を促進
- ・結果 2：無党派の場合
 - Labour=Alliance ⇒ 各 0.45 の確率で Labour と Alliance へ投票
 - Labour の評価↓ ⇒ Labour への投票↓、Alliance への投票↑
 - Labour の評価↑ ⇒ Labour への投票↑、Alliance への投票↓
- ・総合：候補者評価は弱い党派性を持つ有権者も無党派層も程度や切片が異なるものの同じ方向へ影響を与える

結論

□SMD に候補者をノミネーションし、選挙キャンペーン中において提供される情報が有権者の PR 投票先決定にも影響を及ぼす。

⇒SMD と PR はお互いに独立ではなく相互に影響を及ぼし合う

□ノミネートする候補者の資質(Quality)が有権者の PR 投票先決定に影響を及ぼす。

⇒投票先を決定していない有権者にとって SMD 内のキャンペーンから提供される情報は決定過程に用いられる

□他国への応用、一般かの可能性について

- ・有権者の分布、競争の激しさ、キャンペーンへの露出の程度、イシュー要因などによって国ごとに異なる結果が得られる可能性はある。
- 例) NZ の場合、PR が下院の 2nd class として見なされる政治文化が SMD→PR という結果をもたらした可能性はある。
- ・しかし、他の混合制の下での選挙区レベル分析でも干渉(contamination)がかくにんされたことから、ニュージーランドのみの特殊が現象とは言いがたい。

コメント

1. 論文の中で同じ変数について候補者の評価(evaluation)と資質(quality)という表現が両方使われている。高い評価が高い資質と言えるか。異なる概念ではないか。
2. SMD で戦略的投票を行った有権者の場合、PR での投票先は異なりうる。むしろ死票の少ない PR が真の投票先として仮定するのが自然ではないのでは。本稿においては戦略的投票の関する議論が全く行われていない。特に無党派層の中には(感覚的ではあるが)戦略的投票を行う者が少なくないと思われる。著者たちのいう干渉(contamination)は戦略的投票とは対置する現象だと思うが、両方をどう繋げるか。
3. 条件付きロジットと多項ロジットの違いは漠然には理解したような気がするが、本稿のモデルにおいてなぜ条件付きロジットが用いられたかは未だ理解できない。